

ISBN4-901730-64-9

ティップス先生からの7つの提案

学生編



名古屋大学高等教育研究センター

ティップス先生からの7つの提案とは

この冊子は、名古屋大学の学生・教員・大学組織がよりよい教育を実現するための提案と具体的なアイデアをまとめたものです。この冊子は、さまざまな調査により収集した事例をデータベース化し、学習理論研究の成果に基づいて、それらを整理し、簡潔な表現にまとめて提供しています。そのデータのなかには、名古屋大学の先輩学生からみなさんへのアドバイスもたくさん含まれています。

この冊子のねらいは、みなさんの学習態度を評価することではなく、名古屋大学の学生のなかに埋もれていた学習の秘訣を目に見える形にし、広く共有するための枠組みを提供することにあります。

この冊子を読んでほしい人は、次のような人です。高校までの勉強のやり方と大学での勉強のやり方の違いにとまどっている人。自分では頑張れると思って大学に入ってきたのに、なかなかうまくいかなくて悩んでいる人。大学での勉強が楽しくなって、もっと成果を高めたい人。この冊子に収められているアイデアを取り入れて、学習の進め方をもう少し主体的なものにしてみましょう。そうすると、視野が広がって学ぶことがより楽しくなると同時に、学習の効果も高まっていくでしょう。

実は、『ティップス先生からの7つの提案』は学生向け、教員向け、大学組織向けの三分冊からなっています。今みなさんが手に取っているのは、このうちの学生向け分冊です。私たちが三分冊構成にした理由を説明しましょう。学習効果を高め、みなさんの大学生活を充実したものとするには、学生・教員・大学組織の三者の努力が同じ方向に向かって統合されていく必要があります。名古屋大学の教員はさまざまな形で授業改善に取り組んでいるところです。また、大学組織もそうした取り組みを支援しています。でも、それらの取り組みが成功し、優れた授業が実現するためには、学生のみなさんも主体的に授業

に参加する姿勢をもつことが不可欠です。

たとえば、オフィスアワーを例にとってみましょう。最近多くの大学では、オフィスアワーが導入されていますが、必ずしも学生の利用が期待どおりに進んでいないと言われています。オフィスアワーを通じた教育が、より充実したものになるためには、まず大学組織がオフィスアワーの制度を設け、教員と学生が気軽に話せる場所と機会を提供することが大事です。もちろん、教員も単にシラバスにオフィスアワーの時間帯を示すだけでなく、授業のなかで「気軽に研究室に来なさい」と伝えたり、研究室のドアを開放して歓迎の意思表示を行うことが必要でしょう。

でも、みなさん自身が授業でわからないことをそのままにしないで、教員の研究室に足を運ぶといった積極的な学習態度を身につけなければオフィスアワーの制度はうまく機能しないでしょう。

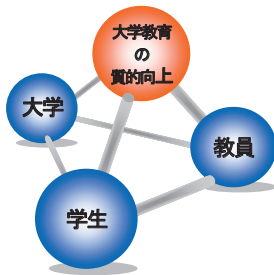


図 大学教育の質的向上を支える学生・教員・大学組織

以上のような考えに基づき、それぞれ学生、教員、大学組織がよりよい授業を実現するために、役に立つ提案を7つの短い文章にまとめ、それぞれの提案のもとにすぐにでも実行可能なアイデアを7つずつ配置しました。それぞれの分冊は他の2つの分冊と内容的に関連づけられており、学生、教員、大学組織の三者の視点から同じ目標が達成されるようになっています。

最後に、ティップス先生という名前の由来について紹介します。本冊子を作成した高等教育研究センターは、これまでに『成長するティップス先生』という大学教員向けの授業の秘訣集を開発し、ウェブページと書籍で公開しています。ティップス先生は、その中の物語の主人公です。この冊子は、『成長するティップス先生』と相互に補完的関係にあるため、『ティップス先生からの7つの提案』と名づけられています。

ティップス先生からの7つの提案の使い方

この冊子は、以下のように使うことができます。

1. 7つの提案は、覚えやすい簡潔な文章からなっています。みなさんが日頃気をつけていること、努力していることを整理して、体系化するための枠組みとして活用できます。
2. 49個のアイデアのなかには、自分では実践したことのないような項目も含まれているでしょう。このなかで取り入れてみたいものがあったら、ぜひ実践してみてください。やってみるときには、少しだけ勇気と努力がいるかもしれません。できそうなところから始めてみましょう。
3. この冊子に含まれているアイデア以外にも、自分はこんなことをやっている！ということがあられるかもしれません。それを仲間や後輩に伝えてみませんか。あなたの学習のノウハウを高等教育研究センターまでお知らせください。次回の改訂に活用させていただきます。

大学での学習に主体的に関わり、実り豊かな大学生活を送るために、この冊子が役立つことを期待しています。

提案 1

教員と接する機会を増やす

大学の教員は研究で忙しくて学生の相手などしてくれないと思うかもしれませんが、しかし、学生が質問に来ることを望んだり、学生の話聞いてみたいと思う教員も少なくありません。大学生活の中で、さまざまなことを話せる教員を見つけることができれば、大学での学びは楽しくなることでしょう。その第一歩として、意識して教員と接する機会をつくってみましょう。

- ➡ 知っている教員に会ったらあいさつする
- ➡ オフィスアワーを利用して教員の研究室を訪問する
- ➡ 授業中はできるだけ前の方に座る
- ➡ 授業に関する質問や意見など、授業時間内もしくは授業直後に教員に伝える
- ➡ 教員の書いた本や論文を読んで教員の考え方を知る
- ➡ 授業以外のことについても相談できる教員を見つける
- ➡ 学生が主催する勉強会やイベントに教員を招待する

提案 2

他の学生と協力して学習する

クラスメイトと積極的に交流することは、はじめは勇気のいることかもしれませんが、しかし、一度交流が進めば、授業に参加することが楽しくなるでしょう。さらに、それぞれの学習方法や考え方の違いを知り互いに補い合うことを通じて、授業内容をより深く理解できるでしょう。もしかしたら、大学時代のかけがえのない友人に出会えるかもしれません。

- ➡ 他の学生の名前や顔を覚える
- ➡ 授業中にグループ学習の機会が与えられたときは、積極的に取り組む
- ➡ 自主的に他の学生とグループを作って課題に取り組む
- ➡ 他の学生が優れた意見や成果を出したときは賞賛する
- ➡ メーリングリストや電子掲示板で建設的な意見を述べる
- ➡ 他の学生から授業でわからない点について聞かれたら、教えたり一緒に考える
- ➡ 他の学生と定期的な勉強会を企画する

提案 3

主体的に学習を進める

漠然と講義を聴くような受け身の学習では高い学習効果を期待することはできません。大学では、主体的に学習する姿勢を身につけることが特に求められています。教員からの指示がなくても、授業に積極的に参加したり、関連する学習を自ら進んで行うことができるようになります。そうすると、大学での学びをより楽しく、また有意義に感じるようになるでしょう。

- 十分な予習をして授業にのぞむ
- 授業中に積極的に発言・質問する
- 大学の授業に適したノートの取り方を身につける
- 教員の考え、他の学生の考え、教科書の考えなどを批判的に検討する
- 授業に関連する文献や研究会などを探す
- 授業をよりよくするための提案やアイデアを教員に伝える
- 学習内容に関連する研究会やインターンシップなどに参加する



提案 4

学習の進み具合をふりかえる

自分が学習目標にどこまで近づいているのかを確認することは、その後の学習を進める上で貴重な情報です。学習活動をふりかえるときに大事なことの一つは、それを学習した直後に行うということです。もう一つは、ふりかえた結果に基づいて自分の理解度を把握し、十分に身につけていない部分をきちんと学習し直すことです。

- 授業の内容が理解できないときは教員に伝える
- 課題や小テストにはすべて取り組む
- 課題の提出前には入念に推敲や見直しを行う
- 授業で学んだことをまとめるノートを作成する
- 教員から試験・レポート・課題のコメントが返された時に、良かった点と悪かった点をふりかえる
- 試験でできなかった問題の解答を試験直後に確認する
- 提出したレポートの控えをとっておき、いつでもふりかえられるように整理しておく

提案 5

学習に要する時間を大切にす

高校から大学に進学すると学習方法や生活が変わり、どのように学習時間をやりくりするのかにとまどう学生は少なくありません。時間を有効に活用することは、学習成果を左右する重要な要素です。学習時間の管理方法を身につけることによって、学習以外の大学生活も有意義に過ごすことができるでしょう。

- 授業で出された課題には、できるだけ早く取り組む
- 授業には遅刻をせず毎回出席する
- 試験シーズンでないときでも、日常的な予習・復習を行うための時間を設ける
- 授業についていけないかどうか不安になった時は、早めに教員に相談する
- 大きな課題に取り組むときには、いくつかの段階を設定し、いつまでにどこまで仕上げるかを計画する
- 授業で発表をする前に自分でリハーサルする
- 私語や発表の直前キャンセルなどによって、他の学生の学習時間を奪わない

提案 6

意欲的な目標に挑戦する

意欲的な目標を持った学生や努力する学生にとって、大学は恵まれた環境であると言えるでしょう。大学にはさまざまな分野の専門家がいるだけでなく、学内の施設に充実した学習資源があります。このような人的・物的資源を有効活用してみましょう。高い学習意欲を見せれば、教員や大学組織はさまざまな形であなたの学習を支援してくれるでしょう。

- 自分なりの意欲的な学習目標を立てる
- 受講した授業では最善を尽くす
- 授業に関連した学術雑誌を読む
- 教員が紹介した発展的内容の文献・課題に挑戦する
- 大学院の授業を見学したいと教員に伝える
- 成績優秀者に対する奨学金やコンテストなどに応募する
- 授業に関連した研究会や学会に参加する



提案 7

異なる考え方や背景を尊重する

さまざまな学習スタイルや属性を持った学生がいることが、大学の活力を生み出しています。自分と考え方や背景などの異なる学生に対して偏見をもつことなく、そうした多様性を尊重していくことが重要です。いろいろな学生と積極的に交流することは、さまざまな意見や価値観を知ることになり、あなたの視野を広げる機会になります。

- ➡ 友人の学習姿勢・態度の中から優れた部分を自分に取り入れる
- ➡ 自分と異なる意見について偏見なく考慮する
- ➡ 自分の意見が少数意見であっても積極的に発言する
- ➡ 授業でグループを作るときは、自分と異なる意見をもった学生と積極的に組むようにする
- ➡ 人種差別、性差別、攻撃的な言動・態度に気づいたときは指摘する
- ➡ 障害を持った者や社会的弱者に対する配慮をする
- ➡ 異なる文化や価値観を理解するための授業や研究会などに参加する

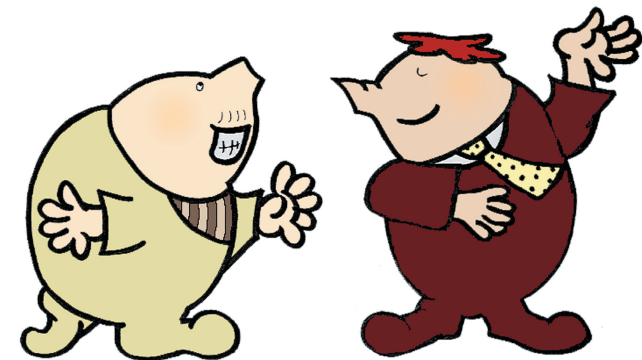
お知らせ

1. 本冊子に収録できなかったアイデアや他の分冊の内容を知りたい人のためにホームページを作成しました。

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/>

2. 『ティップス先生からの7つの提案』の4番目の冊子として、IT活用授業編が加われました。インターネットやメールなどのITを活用して教員が授業の質を向上させるアイデアがまとめられています。
3. この冊子を読んだ感想、改善案、本冊子に含まれていない重要なアイデアなどのコメントをぜひお寄せください。

連絡先: info@cshe.nagoya-u.ac.jp



本冊子作成のために参考にした主な文献

- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)『成長するティップス先生—授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部.
- コーンハウザー, A. W. (山口栄一訳)(2002)『大学で勉強する方法』玉川大学出版部.
- 中井俊樹・中島英博(2005)「優れた授業実践のための7つの原則とその実践手法」『名古屋高等教育研究』第5号, pp.283-299.
- 中島英博・中井俊樹(2005)「優れた授業実践のための7つの原則に基づく学生用・教員用・大学用チェックリスト」『大学教育研究ジャーナル』第2号, pp.71-80.
- 名古屋大学教養教育院(1998-2005)『豊かな教養教育を目指して—共通教育の方針・事例集』各年度版.
- 名古屋大学高等教育研究センター(2005)『「ティップス先生からの7つの提案」の開発』特色GPシリーズ3号.
- 名古屋大学高等教育研究センター(2005)『初年次オリエンテーションを支援するスタディ・ティップスの開発と活用に関する事業』平成16年度学生支援特別経費成果報告書.
- Chickering, A. and Gamson, Z. (1987) “Seven Principles for Good Practice in Undergraduate Education”, *AAHE Bulletin*, March 1987, a publication of the American Association of Higher Education.
- Chickering, A., Gamson, Z. and Barsi, L. (1992) *Student Inventory*, the Seven Principle Resource Center, Winona State University.
- Newport, C. (2005), *How to Win at College: Surprising Secrets for Success from the Country's Top Students*, Broadwaysbooks.

開発スタッフ

名古屋大学高等教育研究センター

戸田山 和久
夏目 達也
近田 政博
中井 俊樹 (プロジェクトチーフ)
鳥居 朋子
中島 英博 (現在、三重大学高等教育創造開発センター)
青山 佳代 (現在、名古屋大学評価企画室)

イラスト

スコーレ株式会社

ティップス先生からの7つの提案〈学生編〉

2005年9月1日 第1版 第1刷
2006年7月1日 第1版 第2刷

著者 名古屋大学高等教育研究センター
名古屋市千種区不老町
TEL 052-789-5696
info@cshe.nagoya-u.ac.jp

印刷 株式会社ダイテックホールディング
名古屋市東区主税町4-85
TEL 052-856-6645 FAX 052-856-6646
odp@daitec.co.jp

© 名古屋大学高等教育研究センター

2005. Printed in Japan

ISBN4-901730-64-9